

和泉を歩こう!  
信太エリア



信太エリアは  
こんなところ

信太エリアマップでは、市の北部にある信太山丘陵とその周辺の平野部を取り上げます。丘陵の北の端にある和泉黄金塚古墳は「景初三年」(239年)と書かれた鏡が見つかったことで、全国的に注目されました。このほかにも、信太山丘陵上とその周りには、弥生時代の集落である惣ヶ池遺跡や、大小の古墳が残っており、それらを歩いてめぐることができます。

また、このエリアは、芝居や浄瑠璃(じょうり)で有名な「葛の葉伝説」ゆかりの地としても知られています。伝説の中に登場する信太の森は、「森といえば信太の森」と言われるほど、平安時代から貴族の間でよく知られた場所でした。

に思った保名は、白狐をかくまっていた。しかし、狩人たちは保名のことを狐が化けた姿に違いないと決めつけ、保名におそいかかってきました。やがて疑いは晴れ、狩人たちは森の中へと去っていききましたが、保名はひどいけがを負ってしまいました。

辛い目にあっただけの保名は生きる望みを失い、いっそのこと死んでしまおうと刀を抜きました。すると、神社のクスノキの陰からたいそう美しい娘が飛び出してきました。娘は死のうとする保名を説得し、保名は思いとどまることができました。

娘の名前は葛の葉といい、保名を送り届けた後も、家にやってきては手あつく看病しました。いつしか、保名と葛の葉は夫婦になり、2人は童子丸(どうじまる)という男の子を授かりました。

保名たち親子3人は幸せに暮らしていましたが、ある秋の日、葛の葉はうっかり本当の姿をあらわしてしまいました。葛の葉の正体は、保名が狩人から助けてあげたあの白狐だったのです。

その姿を童子丸に見られてしまった葛の葉は、「もうここにいることはできない」と、保名と童子丸を置いて信太の森に帰っていきました。一首の和歌を書き残して。

恋しくば 尋ね来てみよ 和泉なる  
信太の森の うらみ葛の葉

保名は葛の葉をさがしに信太の森にやってきましたが、彼女はどこにも見当たりません。しかし、葛の葉と出

① 信太森神社 葛の葉町  
(葛葉稲荷神社)  
しのだのもりじんじゃ(くずのはいなりじんじゃ)



信太森神社本殿

「葛の葉伝説」について

今から1000年以上前のこと。阿倍野というところに、安倍保名(あべのやすな)という男が住んでいました。保名は、父が悪人にだまされたことで、住むところのほかは何もかもうばわれてしまいました。そこで毎日信太の森にある稲荷神社にお参りして、元の暮らしにもどれるようにお祈りしていました。

保名がお祈りをしていたある日のこと。狩人に追われた一匹の白い狐(きつね)が逃げてきました。かわいそう



葛の葉稲荷の歌碑

会った神社には、見たことのない葛の葉っぱが一面に生い茂っていたそうです。

その後、成長した童子丸は、陰陽師 安倍晴明(おんみょうじ あべのせいめい)として世に知られるようになったそうです。

「葛の葉伝説」にはいくつかのパターンがありますが、これは、信太森神社(葛葉稲荷神社)のあたりに伝わるお話です。この神社が開かれたのは、和銅元(708)年とされていますが、江戸時代に書かれた記録によると、元は庄屋(村の役人)の屋敷の中に建てられた神社だったと考えられます。

神社の中には、白狐が姿を隠したというクスノキの大木・千枝の楠(ちえのくす/和泉市指定天然記念物)や、白狐が姿を映して葛の葉に化けたと伝えられる「姿見(すがたみ)の井戸」など、伝説にちなんだ場所が残っています。

信太エリアマップ



和泉を歩こう! 信太エリア  
和泉市の  
歴史と文化財  
マップ

和泉黄金塚古墳  
美しい姿を今に伝える史跡、和泉黄金塚古墳。  
周辺には江戸時代から変わらない棚田が広がっています。

弥生時代の歴史が眠る街  
和泉市の文化財ウェブサイト



ウェブサイトアドレス <https://izbun.jp/>

発行: 和泉市文化財活性化推進実行委員会  
発行日: 2019年3月31日

## ② 和泉黄金塚古墳 上代町

いずみこがねづかこふん

古墳時代前期(4世紀)に築かれた、全長約94mの前方後円墳です。旧陸軍が掘った塹壕(ざんごう/兵士が敵から身を隠すための溝)から副葬品(ふくそうひん/死者とともに埋められた物)が見つかったことがきっかけとなり、1950・51年(昭和25・26年)に発掘調査が行われました。

この調査で、後円部から3つの埋葬施設が並んで見つかりました。中央に女性、左右に男性が埋葬されたようです。中央の埋葬施設からは、卑弥呼が魏(ぎ/中国)に使いを送った年にあたる「景初三年」(239年)と刻まれた銅鏡が見つかり、全国的に注目されました。

鏡のほかにも装飾品や剣などたくさんのもが見つかり、これらの出土品は国の重要文化財に指定され、東京国立博物館で保管されています。

また、和泉黄金塚古墳は、2008(平成20)年に国の史跡に指定されました。古墳の周辺には棚田(たなだ)が広がり、美しい姿を今に伝えています。この史跡指定を記念して、「和泉こがね」ちゃんが誕生しました。



和泉黄金塚古墳(国指定史跡)



「景初三年」銘鏡の拓本

## ③ 熊野街道と三王子

くまのかいどうとさんおうじ

和泉地方を海岸線にそって走る南海道は、平安時代以降、京の都から熊野へのお参りの道として栄えた道です。11世紀ころからは、上皇(じょうこう/退位した天皇)から庶民までたくさんの人でにぎわい、熊野街道と呼ばれるようになりました。

街道には九十九王子と呼ばれる神社があり、人びとはそれらにお参りしながら熊野を目指しました。この王子は熊野へむかう人びとの休憩や宿泊の場でもありました。和泉市内には、篠田(信太)、平松、井ノ口の三つの王子があったと伝わっています。

物語やお芝居の中で、小栗判官(おぐりはんがん)が熊野へ向かう際に通った道として描かれていることから、小栗街道とも呼ばれています。



熊野街道

## ④ 信太山演習場 小野町

しのだやまえんしゅうじょう



信太山丘陵

信太山丘陵の大部分は、江戸時代までは聖(ひじり)神社の土地でしたが、明治3(1870)年に国有地にされました。明治5(1872)年、陸軍は大砲の試し撃ちをするための射的場を造り、明治20年ころには信太山一帯が陸軍の演習場となりました。

その一方、演習場内には蔭涼寺(いんりょうじ)や山ノ谷の集落、農地や農業用ため池もありました。

戦後は、アメリカ軍によって占領されていましたが、1957(昭和32)年、日本に返還されました。丘陵の北部が鶴山台地として開発されたほかは、陸上自衛隊の演習場として引き継がれ、現在に至ります。

## ⑤ 蔭涼寺

いんりょうじ

尾井町

山ノ谷の集落内にある曹洞宗(そうとうしゅう)の禅寺です。鉄心(てっしん)というお坊さんが寛文元(1661)年に開きました。

本堂前のギンモクセイは、お寺が開かれたときに植えられたものと伝えられており、大阪府の天然記念物に指定されています。9~10月ごろ良い香りの白い花を咲かせます。

また、本堂の廊下の「血天井」も有名です。この天井板に残る血のあとには、大坂夏の陣の際、伏見桃山城にて自刃(じじん)した豊臣方の兵士のものだと伝えられています。



蔭涼寺

## ⑥ 惣ヶ池遺跡 鶴山台

そうがいけいせき

信太山丘陵の尾根にある、弥生時代後期の大規模な集落跡です。鶴山台が開発される時に調査され、その重要性から遺跡の一部が鶴山台惣ヶ池公園として保存されています。

2013(平成25)年、公園のバリアフリー化のための工事にともない、一部を発掘調査したところ、竪穴住居の跡が見つかりました。その竪穴住居からは鉄でできた矢じりが見つかり、惣ヶ池遺跡が重要な遺跡であることが再確認され、公園全体が和泉市の史跡に指定されています。



発掘中の鶴山台惣ヶ池公園(市指定史跡)

## ⑦ 信太山の古墳

しのだやまのこふん

【信太貝吹山古墳】しのだかいぶきやまこふん

5世紀ごろにつくられた帆立貝(はたてがい)式古墳で、全長は60mほどです。江戸時代の農民一揆(千原騒動)で、この古墳上でほら貝が吹かれたことから、「貝吹山」と呼ばれるようになったといわれています。

【丸笠山古墳】まるかさやまこふん

全長100mほどある、市内最大の前方後円墳です。4世紀ころにつくられたと考えられています。古墳の周りには、周濠(しゅうごう/古墳にめぐらされた堀)のなごりと考えられるため池が残っています。

【信太狐塚古墳】しのだきつねづかこふん

6世紀後半につくられた全長58mの前方後円墳です。信太山丘陵のへりに造られており、古墳からの眺めはとても良いです。



このほかにも、信太山丘陵とそのそ野に、歩いてまわれる範囲に古墳がいくつも残されています。



## ⑧ 西教寺

さいきょうじ

幸

浄土真宗(じょうどしんしゅう)のお寺で、元禄11(1698)年に、南王子村の住民とともに今の場所に移転しました。

境内には、江戸時代~昭和の建物が残っています。小規模ではありますが、立派な構えをしたお寺で、2014(平成26)年に国の登録有形文化財となりました。境内には、推定樹齢500年以上のイブキの大木(府指定天然記念物)もそびえています。

また、1873(明治6)年に開校した小学校の仮校舎となり、1923(大正12)年には南王子水平社創立大会の会場ともなりました。地域の歴史を語る上で、欠かすことのできないお寺です。



西教寺の諸堂(国登録有形文化財)とイブキの大木(府指定天然記念物)

## ⑨ 佐竹ガラス

さたけがらす

幸



佐竹ガラスの工場(国登録有形文化財)

佐竹ガラスは、1927(昭和2)年に創業しました。地域の産業であるガラス細工や人工真珠の製造を支えてきた工場です。ここでは日本で唯一の色ガラス棒生産工場です。ここで造られたガラス棒が、美しいガラス細工の材料となります。

団地の建ち並ぶ一角にある木造の工場は、昭和初期に建てられたものです。また、同じ敷地内の主屋は昭和初期に再建されたたいへん立派な伝統的風建築です。

これらの建築物の価値が評価され、2001(平成13)年に国の登録有形文化財になりました。

## ⑩ 信太の森の鏡池

しのだのもりのかがみいけ

王子町

聖神社の北側にある「葛の葉伝説」の舞台となった池です。安倍保名が白狐を助けた場所、狐がこの池に姿をうつして人間に化けたことから、「鏡池」と呼ばれるようになったそうです。

「葛の葉伝説」ゆかりの地として、和泉市の史跡に指定され、公園となっています。園内には、信太の森ふるさと館があり、「葛の葉伝説」や信太山の歴史について展示しています。



信太の森の鏡池(市指定史跡)

信太の森ふるさと館

- 所在地 和泉市王子町914-1
- お問合せ(電話・ファックス) 0725-45-0605
- 開館時間 午前10時~午後5時  
(入館は午後4時30分まで)
- 休館日 月曜日(祝日の場合は翌日)、祝日の翌日(土日は開館)、年末年始、展示入れ替え期間(不定期)
- 入館料 無料

